



2019年度 首都大学東京FDセミナー

# 学修成果の把握と 評価、そして 可視化に向けて

日時 2019年11月26日（火）14:10 開場  
14:40 開始  
会場 南大沢キャンパス本部棟1階  
大会議室 東京都八王子市南大沢1-1  
京王相模原線 南大沢駅下車 徒歩5分  
申込 申込不要・当日参加可能・参加費無料

学生を含む学内外すべての皆様にご参加いただけます。

※ テレビ会議システムによる中継で、日野キャンパス1号館会議室1～2、荒川キャンパス管理棟2階大会議室からもご参加いただけます。

※ セミナー終了後、南大沢キャンパス内、ルヴェ・ソン・ヴェールにて懇親会を行います。参加される本学教員や学外者の方は、11/20までに、事務局あてメールにてご連絡ください。

## プログラム

### 事例発表

産業技術大学院大学における  
学修成果可視の取組

産業技術大学院大学  
情報アーキテクチャ専攻 専攻長

小山 裕司

### 学内事例発表①

汎用的能力の育成と評価を踏まえた  
授業設計について

大学教育センター 教授

松田 岳士

### 学内事例発表②

汎用的能力の測定・評価の試み  
～基礎ゼミナール及び教養科目の実践事例～

大学教育センター 准教授

近藤 伸彦

### 学内事例発表③

生物学実験への組織的なルーブリック  
評価の導入と、ポートフォリオ化に向けた取組

理学部生命科学科 教授

鈴木 準一郎

## パネルディスカッション

# 学修成果の把握と評価、そして可視化に向けて

～学生が成長を実感できる評価方法、可視化のあり方とは～

## 趣旨説明

近年、大学教育においては、学生の学修成果を明確に示すことが求められています。ディプロマ・ポリシー（DP）で定める学修成果、即ち知識や技能、そして普遍的に有用性を持つ能力について、卒業の段階で学生が確かにそれらを身に付けているということ、社会に対して説明する術を考えていかななくてはなりません。

学生が何を学び、身に付けることができるのかを明確に示し、大学での学びを通じて学生自身が成長を実感できる教育を行っていくためには、何が必要となるのでしょうか。そして、DPで定める学修成果をどのように測定・評価し、可視化していけばよいのでしょうか。大学全体・カリキュラム・個々の授業科目とを結ぶ、学修成果の把握・評価・可視化のあり方について、学内外の事例発表を交えながら教職員一同で考える機会とします。

## タイムテーブル

- 14:40～14:45 開会挨拶 上野 淳（学長）
- 14:45～14:55 趣旨説明 横田 佳之（大学教育センター長）
- 14:55～15:15 事例発表 小山 裕司（産業技術大学院大学 教授）  
「産業技術大学院大学における学修成果可視の取組」
- 15:15～15:40 学内事例発表① 松田 岳士（大学教育センター 教授）  
「汎用的能力の育成と評価を踏まえた授業設計」
- 15:40～15:45 休 憩
- 15:45～16:15 学内事例発表② 近藤 伸彦（大学教育センター 准教授）  
「汎用的能力の測定・評価の試み  
～基礎ゼミナールおよび教養科目の実践事例～」
- 16:15～16:35 学内事例発表③ 鈴木 準一郎（理学部生命科学科 教授）  
「生物学実験への組織的なルーブリック評価の導入と  
ポートフォリオ化に向けた取組」
- 16:35～16:45 休 憩
- 16:45～17:25 パネルディスカッション
- 17:25～17:30 閉会挨拶 山下 英明（副学長）

総合司会 田中 敬一（経済経営学部 教授・FD委員会委員）

